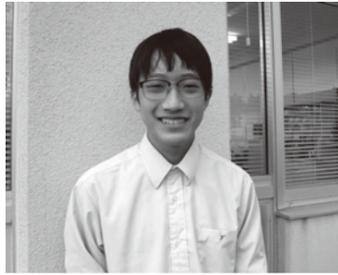


Funehiki High School News vol.146

～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第26回 ふくしま復興大使として活動中 鈴木 紬さん

今回は、福島民報社が公募した2019年度ふくしま復興大使に委嘱された鈴木紬さん(1年 船引中出身)に話を聞きました。復興大使は全国各地を訪れ、東日本大震災や東京電力福島第一原発事故からの復興に向かう県民の思いを発信するとともに、県内を元気にする新たな取り組みとして健康づくりの先進事例を学び活動をする事になっています。鈴木さんは、7月にJヴィレッジ(楡葉・広野町)で復興大使同士の交流を行い、8月には長野県松本市を訪れました。



復興大使として活動 鈴木 紬さん

— 応募したきっかけと選ばれた気持ちは?
復興大使に応募したときには、今までやったことのない新しいことにチャレンジしようという思いで作文を書いたので、選ばれることまでは考えていませんでした。選ばれたと聞いて、自分でいいのかな?と不安にも思いましたが、嬉しかったです。7月にJヴィレッジで初めて復興大使の仲間と会い、新しい挑戦が始まるのを感じ、楽しみになりました。

— 松本市での主な活動について教えてください。
松本市は市内の35地区すべてに「地区福祉ひろば」が設置されており、健康寿命の延伸を目指したさまざまな取り組みが行われています。そこで行われている「百えんカフェ(飲食しながら交流する場)」に参加しました。まず、私たち復興大使一人一人から福島県のPRや東日本大震災時の思いなどを発表しました。その後、地域の方々と交流しました。皆さんが生き生きと活動されていたことが印象的でした。ま

た、自家用車の使用を減らすことを目的とした交通政策を町の様々なところで見ました。そのような視点で自分の町を見たことがなかったので良い経験になりました。

— 同じ復興大使の中・高・専門学校生と活動して思ったことについて教えてください。
復興大使の仲間とは、活動の合間に学校の様子や将来の夢について話しました。また東日本大震災について、幼いときに他県に避難をした経験や、最近になってやっと帰還できたことなどを聞きました。私は震災当時、他県に住んでいたため、初めて当事者の気持ちにふれて本当に大変な事故だったのだと実感しました。

— 今後、まずはどんなことをしたいですか。
松本市には様々な政策がありましたが、健康のためには人と人とのつながりが重要だということが分かったので、まずは友人に自分が経験したことを伝え、それがどんどん広がるようになればいいなと思っています。



◆普通救命講習会 8月5日、6日に田村消防署員を講師に迎え、心肺蘇生法やAEDの使用方法を学ぶ普通救命講習会を実施しました。救命には発見者が行う早期認識と通報、一時救命処置が重要だと教えていただき、参加した77名の生徒は緊急の事態を想定しながら真剣に学びました。本校では4月に全職員もAED講習を受講しており、日頃から緊急時の対応訓練を行っています。

◆鵬翼祭

今年は3年に一度の文化祭「鵬翼祭」が開催されます。「It's 笑 time ～令和だヨ! 笑ったもん勝ち～」がテーマの、令和初の文化祭です。船高生はもちろん、来校された方も「笑顔」になっていただけるよう、全校生一丸となって催し物を企画しています。船高生のパワーを実際に肌で感じてみませんか?地域の皆様のお越しを心よりお待ちしております。
【一般公開】11月3日(日) 10:00～15:00(最終受付14:00)



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...https://funehiki-h.fcs.ed.jp mail...funehiki-h@fcs.ed.jp



Allison Clay
アリソン・クレイさん
(アメリカ合衆国
オハイオ州出身)
田村市に来て2年目

夏休みに東京に行ってきた。試したいことがたくさんあったので。食べたことのないものを食べたり、上野にあるいくつかの博物館に行きたいと思っていましたが、運よくどちらも実現させることができました。

最初にしたのは、食べたことのない食べ物に挑戦することでした。六本木ではエジプト料理に挑戦しました。とても独特で、たくさんのお草が使われ辛みがあり、インド料理やギリシャ料理に似た感じがしました。上野ではカフェでカレー味のポテトサンドイッチとコーラフロートを食べるととても元気になりました。私の心に残ったのは、クラムチャウダーやポップコーン・シュリンプ(エビフライに似ているが、エビフライほどカリッとしていない)などのアメリカン・スタイルの料理がメニューにたくさんあったレストランです。

そのほかにしたかったことは、博物館巡りでした。とても暑かつ

食べ物、楽しみ、そして芸術

たので二館しか見る事ができませんでしたが、とても楽しかったです。東京国立博物館では、日本全国から集められたいろいろな展示物を見ました。奈良から来た仏像類は信じられないほど美しく荘厳で息をのむほどでした。次に訪れたのは国立西洋美術館です。私は大学で美術を専攻していましたが、そこで見た多くの絵画は美術集の中でしか見たことがないものでした。ヴァン・ゴッホ、ムンク、ロダン、モネなどの有名な芸術家による作品がたくさんあり、中でも印象深かったのは、モネの大きな睡蓮の絵でした。傷みがひどく、絵の上部はほとんど失われたものの、それでもとても印象的で、きわ立った美しい色使いを見せていました。

東京から戻る頃はとても疲れていましたが、田村市に帰って来て元気を回復しました。大都市の喧騒も少しの間は楽しいですが、平穏で静かな田村市の我が家が帰ってくるのはなによりもすばらしいことです。



海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 75



Endia Mathews
エンディア・マシューズさん
(アメリカ合衆国
ジョージア州出身)
田村市に来て3年目

何故郷を思い出させるよりも懐かしいもの

来日して2年以上が過ぎた今年の夏休みにアメリカの故郷に帰りました。帰る前に家族や友人たちから、帰ってきたらどこに行きたいか聞かれました。私の答えは少し普通ではないかもしれませんが、「ワッフル・ハウス」に行きたい。」と答えました。「ワッフル・ハウス」はアメリカ南部の州で人気のあるレストランで、24時間いつでも朝食メニューを提供することで有名です。そのレストランの食べ物がかしかなかっただけでなく、「グリッツ」(とうもろこしの粉を煮込んだお粥)のような伝統的な南部の食べ物も食べたかったからです。日本に来た時、大好きな食べ物やお菓子が買えるいろいろな国の食べ物売っている店があったのでうれしかったのですが、その店をはじめほかのどの店でも「グリツ



ツ」を見つけることはできませんでした。「グリッツ」は「ポリッジ」(水または牛乳でオートミールなどを煮た粥状のもの)と歯ごたえは似ていますが、とうもろこしから作られていて、朝食・昼食・夕食のいつでも食べられている食べ物です。また、タコス(メキシコ料理の一種)、ビーン・バーガー(ペジタリアンのための豆を使ったハンバーガー)、スパイシー・チーズ・ディップ(チーズでできた辛いソース)もなつかしい食べ物です。日本に帰って来る前に、日本でも料理できるようにグリッツやほかの食べ物を何袋も買うことを忘れませんでした。そして食べる度に故郷の味を思い出しています。